

漢字は一目で意味がわかる

名神高速道路ができた時、道路指示に使う最もよい文字を選ぶために実験したところ、ローマ字で書いた場合、判読に十数秒かかり、かなで書かれたものは数秒、そして、漢字の場合は、数分の一秒で読める、ということがわかりました。

国語に「ハナ」という言葉があります。「突き出たところ」というような意味の言葉ですが、草木の花も、顔の鼻も、同じく「ハナ」です。ところで、鼻から出るものを「洩」と書きます。

「ハナ」と書いたのでは、それがなにをさすのかははっきりとしませんが、これを花・鼻・洩と書き分けると、一目ですぐに意味がわかります。それに、「花」という字には、たんとなく美しい雰囲気がありますが、「洩」には、汚らしい雰囲気があります。見るからに胸が悪くなるような字で、ズルズルという音さえ聞こえてきそうな気がします。

このように、漢字というものは、それぞれに鮮やかな印象を秘めていて、一目見ただけで正しく早く、その文字が意味するものを呼び起こしてくれます。思想の伝達という機能を果たす上で、漢字ほど優れ

た働きを持った文字は、他にありません。

言葉は、録音しておかなければ口から出た途端に消えてしまい、しかも、ラジオやテレビのような手段によらないかぎり、その伝わる範囲もごく近くに限られます。ところが、文字になりますと、時間的にも空間的にも、その効果がずっと大きくなります。

文字というものは、そういう機能を持ち、言葉の短所を補うものとして生まれたものですが、もう一つ注意すべきことは、文字が、言葉では精密に区別し、表現できない点まで表現できる、ということです。

先の例の「花」「鼻」「洩」もそうですが、「見る」「看る」「視る」「観る」という表記もそうです。これらは、英語の see, look, inspect, observe に当たる意味を表わしています。つまり、「見る」は「何気なくみる」ことであり、「看る」とあれば、「みようとしてみる」ことであり、「視る」とあれば、手落ちはないかと「注意してみる」こと、そして「観る」とあれば、「細かい点にまで心を配ってみる」ことであるのがわかります。

ですから、「川をみる」という表記では、どういう態度で川をみるのかわかりませんが、「川を見る」「川を看る」「川を視る」「川を観る」と書けば、その川をどのようにみているのかがはっきりとわかります。

このように、言葉では不可能な点まで表現できるところに、漢字の、文字としての大きな特長があるのです。これが漢語の表記となりますと、一層その特長がはっきりしてきます。

わたしは、六年生の教科書を見ていて、「こう水」という表記を目にした時、一瞬とまどいました。それは「洪水」のことだったのですが、わたしはその「こう水」を一瞬、「こうすい」と読んだのです。「こうすい」では、「香水」か「硬水」か「鉱水」になってしまいます。つまり、小学校では、これらの漢字を教えないで、「こう水」という表記で教えているのですから、じっさいの「洪水」「香水」「硬水」「鉱水」という言葉を理解させることはできないのではないかと思います。

「こう水」という表記がこれこれの四つの言葉をあらわすということは、説明してやることはできますが、それでは子どもにはとても理解できないでしょう。

ところが、この「こう」を洪・香・硬・鉱という漢字にすると、それぞれ明瞭な意味を持っていて、決して紛れることはありません。だから、漢字で学ぶことは、かなで学ぶよりも、ずっとやさしく能率的なのです。だから、漢字で学んだ子どもたちは、「かなばかりの本は読みにくくて

意味がわかりにくい」と言っているのです。

つまり、漢字を学ぶことは、概念を明確にすることであり、物の考え方ははっきりさせることになるのです。だから、「漢字の学習は頭脳を明晰にする」と言うことができます。